

覧古考新

岡谷市史編さん室だより『覧古考新』No.34

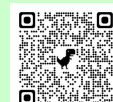
2025(令和7)年 11月

岡谷市教育委員会生涯学習課

岡谷市史編さん室 編集・発行

岡谷市中央町1-11-1 イルプラザ3F

TEL 0266-78-8455



WEBはこちら

覧古考新：古い事柄を顧みて、新しい問題を考察すること

～岡谷の歴史を深く思い、岡谷の今を重ね、岡谷の未来が拓けるような新しい市史をめざして～

シリーズ 岡谷市史下巻以降のおもなできごと ⑭ ごみ処理・リサイクル ー後編ー

広報誌などから旧市史＜岡谷市史下巻1982（昭和57）年刊行。編年：昭和20年～昭和53年＞以降の岡谷市政を中心に、テーマを設けてシリーズとして拾っています。今回は「ごみ処理・リサイクル」後編です。

岡谷市 ごみ処理の変遷・経緯 （4種の文字色は以下の年表出来事に対応）

- ①可燃物（現 燃やすごみ）、不燃物（現 埋立ごみ）収集
- ②「物を大切にする市民運動」から資源物回収へ
- ③資源物のリサイクルを次々と開始
- ④家庭ごみ有料化と生ごみ・プラスチックのリサイクル ⇒今号で記述

「覧古考新」No.33 既出

西暦	和暦	年	月	出来事
2005	平成	17	3	ごみ処理基本計画を策定（下記参照）
2006	平成	18	6	一般家庭の生ごみリサイクルモデル事業スタート（間下区・新屋敷区・鮎沢区）
2009	平成	21	4	市内全地区などで「家庭ごみ有料化・その他プラ分別回収」説明会を開催（140回開催）
			7	一般家庭の生ごみリサイクルを市内全地区で開始
2010	平成	22	4	家庭ごみ等の有料化、その他プラ分別回収、生ごみの拠点回収スタート
2011	平成	23	9	岡谷市・諏訪市・下諏訪町の2市1町が、ごみ処理を共同で行うため、湖周行政事務組合設立
2013	平成	25	11	岡谷市清掃工場閉場式 → 裏面記事 ①
2015	平成	27	9	サンデーリサイクルデーにて硬質プラスチック製品試験回収を開始
2016	平成	28	12	諏訪湖周クリーンセンター本格稼働開始 施設規模：110t／日（55t／24h×2炉） 施設の特徴：高効率ごみ発電でエネルギーを回収し、CO2を削減。最新の排ガス処理で環境負荷を抑えている。
2020	令和	2	7	レジ袋有料化
2022	令和	4	3	「2050年岡谷市ゼロカーボンシティ宣言」を発出
2024	令和	6	6	製品プラスチックの試験回収を一部地区で開始 → 裏面記事 ②
			10	湖周行政事務組合が諏訪市坂沢地区への一般廃棄物最終処分場建設を断念 → 裏面記事 ③

諏訪湖周クリーンセンター
（愛称：ecoポッポ）



写真：2025年 市史編さん室撮影

湖周行政事務組合HP
【バーチャル見学のページ】
内部の様子がよくわかります！



「岡谷市環境基本計画」(平成12年 4月策定)

岡谷市環境基本条例に基づき、環境保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために策定されます。同条例の基本理念を踏まえ、長期的な視点から望ましい環境像を定め、その実現に向けた環境保全施策の方向性と、市民、事業者、行政が主体的に取り組むための行動指針を示しています。

現在は、『第5次岡谷市環境基本計画』に基づき施策に取り組んでいますが、ごみ処理やリサイクルに関しては「基本目標1 持続可能なまち《地球環境の保全》」に記載しており、循環型社会の実現に向け、3Rの推進、廃棄物の適正処理と施設の維持管理を推進していくこととしています。

「ごみ処理基本計画」とは・・・

ごみ処理基本計画は、諏訪湖に面する岡谷市、諏訪市、下諏訪町の2市1町の湖周地区におけるごみ処理を広域的に共同で行うことにより、ごみ処理に関する施策の円滑な実施を図り、循環型社会を構築することを目的とするものです。計画の主な目的は以下のとおりとなります。

1 ごみ処理の現状把握

湖周地区におけるごみ処理の現状を把握し、広域的なごみ処理を推進する上での課題を整理します。

2 ごみ処理の基本方針の決定

広域的なごみ処理の推進に向け、ごみ処理の基本的な考え方や方針を決定します。

3 基本計画の策定

収集から最終処分にいたるまでのごみ処理を広域的に共同で行うことを前提に、各種施策を策定します。

